



ASIAN AND MIDDLE EASTERN STUDIES TRIPOS Part IA

Japanese Studies

Monday 4 June 2012 9.00 – 12.00

J.3 MODERN JAPANESE TEXTS, 1

Answer ALL questions.

*Write your number **not** your name on the cover sheet of each Answer Book.*

STATIONERY REQUIREMENTS

20 Page Answer Book x 1

Rough Work Pad

You may not start to read the questions
printed on the subsequent pages of this
question paper until instructed that you may
do so by the Invigilator.

SECTION A

1 Translate the following passage from a seen text into English and answer the accompanying questions:

(a) [12 marks]

目を覚ますと、一番先に台所へゆき冷蔵庫から卵を出す。これが左知子の朝の習慣だった。卵は二個である。

夫の松夫と左知子がご飯にかける分だけ皿にのせ、それから歯を磨き顔を洗う。

冷蔵庫から出したての卵はおいしくない。室温にもどしてからのほうが、オムレツでもふんわり焼けると聞いてからこうしている。

水のように冷たい卵は固くて重たいような気がする。白い皿の上で、にぶい音を立ててぶつかり合い揺れていたが、すぐ静かになつた。

朝、パンを食べてくれれば手間がかからないのだが、松夫は米のご飯でないと食べた気がしないと言う。

「子供が生れたらパンにするから」

新婚の頃にそう言われ、せいぜい一年の辛棒と踏んでいた。まさか五年間、毎朝電気釜を仕掛けることになろうとは思わなかつた。

「まだ？」

食卓で朝刊をひろげている松夫が、早朝会議を忘れていたからと、朝食の催促をする。まだ、というのは、左知子が一番聞きたくないことばである。

「まだなの？」

「そろそろ、いいんじゃないの？」

同居していないだけましだが、姑に何度もこう言われた。夫はひとりっ子なので、後継を待つていてるのだ。もつとも、待たれたのは三年目までで、最近は逢つても子供の話題は避けている。こうなると、いつそあけすけに催促されているほうが左知子は気が楽だつた。

MUKŌDA KUNIKO, ‘Uso tsuki tamago’, in *Odoki medoki* (2002), pp. 72-3.

- (b) 出したての卵 Explain the use of *-tate* and give two examples with translations. [4 marks]
- (c) 食べてくれれば Analyse this phrase and give an example of the use of *-te kureru* with translation. [4 marks]
- (d) 聞きたくない Give the equivalent form for the following verbs: *shimu*, *oyogu*, *arau*, *miru*. [4 marks]

- 2 Translate the following passage from a seen text into English and answer the accompanying questions:

(a) [12 marks]

毎朝顔を合わせていながら、石黒はビリケンの店で買ったことは一度もなかつた。
どちらかといえば亭主関白で、買ひものなどは女房任せのほうである。自分で買うのは煙草と週刊誌ぐらいだつたが、買ひもの好きだとしても、ビリケンの店では買わなかつたろう。
商売やつてゐるなら、そつちから会釈のひとつもしたらどうだというところがあつた。
亭主のそういう気分は女房にも伝わるとみえて、石黒の女房も滅多にビリケンの店では買わなかつた。

「品数は少ないけど、ものは悪くなさそうよ。値段も良心的だし」といながら、駅前のスーパーで買つていた。

亭主が毎朝、目を合わせてゐることは知らないが、何となくカンにさわつてゐるという感じは判つてゐるらしかつた。

一回だけ例外があつた。

休みの日に、夫婦で知り合いの家へ顔を出す用があつた。何か手土産でも、といながらビリケンの店の前まで来ると、女房が石黒の袖を引つぱつた。

「スーパーより五百円も安いわよ」メロンのことである。

石黒が返事をしないうちに店に入り、進物用に包んで下さいね、と声をかけていた。ビリケンは一瞬ポカンとしたが、すぐにいつもの顔にもどり、棚から箱をおろし、包みはじめた。

「おい」その手際の悪いことといつたらない。第一、包み紙がひどくお粗末である。

MUKÔDA KUNIKO, ‘Biriken’, in *Odoki medoki* (2002), pp. 36-38.

- (b) 買つたことは一度もなかつた Explain how *-ta + koto ga nai* is used and give two sentences using this construction, with translations. [4 marks]
- (c) 悪くなさそう Explain what this means and give the equivalent forms for *oishii* and *omoshiroi*. [4 marks]
- (d) 食べると Explain the usage of verb + *to* and give two examples with translations. [4 marks]

(TURN OVER)

- 3 Translate the following passage from a seen text into English: [12 marks]

「いいとも。」

二人は同時に返事をした。良平は「優しい人たちだ」と思った。

五六町余り押し続けたら、線路はもう一度急勾配になつた。そこには両側の蜜柑畑に、黄色い実がいくつも日を受けている。

「登り路の方がいい、いつまでも押させてくれるから。」

——良平はそんなことを考えながら、全身でトロッコを押すようとした。

蜜柑畠の間を登りつめると、急に線路は下りになつた。縞のシャツを着ている男は、良平に「やい、乗れ」と言つた。良平はすぐに飛び乗つた。トロッコは三人が乗り移ると同時に、蜜柑畠の匂いを煽りながら、ひたすべりに線路を走り出した。「押すよりも乗る方がずっといい。」——良平は羽織に風をはらませながら、当たり前のことを考えた。「行きに押すところが多くれば、帰りにまた乗るところが多い。」——そもそもまた考えたりした。竹藪のあるところへ来ると、トロッコは静かに走るのをやめた。三人はまた前のようく、重いトロッコを押し始めた。竹藪はいつか雜木林になつた。爪先上がりのところどころには、赤錆の線路も見えないほど、落ち葉のたまっている場所もあつた。その路をやつと登り切つたら、今度は高い崖の向うに、広々と薄ら寒い海が開けた。

SECTION B

- 4 Translate the following passage from an unseen text into English: [40 marks]

私たちが日本を出発したのは、横浜からであった。ソ連の貨客船バイカル号に乗つて
ナホトカに着き、シベリア鉄道でハバロフスク、そしてモスクワへ。そこに三日間滞在
し、再び列車で、ポーランド、当時の東ドイツ、西ドイツを経由して、アムステルダム
に到着した。

文子さんはモスクワ滞在中、どこへ行つても長い行列で、パンも果物も簡単に買えな
い不便さにいら立つていた。私は旅行中のことだし、急いでいるわけではなかつたから、
長い行列での買い物も、それなりに楽しかつたが、四月中旬とはいえたままだ寒く、戸外で
の行列はやはりつらかつた。

「ウクライナ」のような大ホテルでも、トイレットペーパー不足らしく、小包に使うよ
うな硬い紙か古い新聞が小さく切つてトイレに置いてあり、便意を催すたびに恐怖を覚

(TURN OVER)

えたものだ。のちにロンドンで結婚して落ち着いたとき、その話を夫と彼の友人にすると、夫の友人は、

「そのトイレにあつた新聞は、イズヴェスチアか、それともプラウダだつたか？」
と冗談をいつて笑わせたが、モスクワで私たちは、トイレットペーパーを求めて、街

中の店をのぞきまわつた。「ウクライナ」のような大酒店にないものが、モスクワの商店にあるはずがなかつたのであるが、私たちは、深刻かつ真剣だつた。ホテルのレストランで、日本にあるような上質の柔らかい紙ナップキンとは程遠い粗末な紙ナップキンを取つておいて、それをトイレ用に使つたりもした。

街の中で、美しいロシアの女性やハンサムな兵士を見るたび、この人たちもあんない紙でお尻を拭いているのかしらと想像するとおかしかつた。当時は、きっと、ボリショイ・バレエの美しいバレリーナも、硬い茶色の紙でお尻を拭いていたにちがいない。

TAKAO KEIKO, *Igirisujin wa okashii* (2001), pp. 156

ソ連 Soviet Union

貨客船 passenger-cargo ship

文子 ふみこ

行列 queue

いら立つ get irritated

中旬 middle part of month

硬い hard

便意を催す feel a call of nature

冗談 joke

街=町

かつ and

END OF PAPER